

# じゃっと新聞

No.57号

活動視察報告・総会ご案内

発行日：2011.3.24

発行人：小幡 順子

発行所：じゃっと事務局

〒895-0054 鹿児島県薩摩川内市神田町

11-20

若松記念病院内

TEL/FAX 0996-27-0193

e-mail [jaddo@po2.synapse.ne.jp](mailto:jaddo@po2.synapse.ne.jp)

<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/>



折り紙で鶴を折る子供達

2010年じゃっとツアーを終了して

理事長 小幡順子

学生派遣を提案して5年。途中中断がありましたが、この度計画していた3回目派遣を終了しました。みなさまのご協力とご理解のもと、大きな事故もなく計画が終了しましたことをご報告いたします。

今回の派遣では、一会員様のご厚意で計画していた以上の6名を派遣することができました。12月24日から31日の8日間の日程で、高校生3名、大学生3名の学生が参加し、今回初となる民泊も経験しました。仔細はツアー報告をご覧ください。

学生が民泊したナテ村は、ラオスを毎年見ている私にとって比較的清潔な統率のとれた村だという印象があるのですが、ラオス初体験の学生にとってはゴミが多い学校と印象に残ったようです。私にとって、日本ですれてしまった常識（忙しいから家族全員で食事をとれないのは当たり前 等）を初期化するよい機会であるラオス訪問なのですが、逆にラオスの常識にとらわれてはならないなと思うことでした。

これからも、学生派遣が続けられるように事務局所在の薩摩川内市と連携をとっていけたらと計画中です。

また、活動には資金が必須ですが、今年度も九州電力生協様より多額のご寄付をいただきました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。これからも、ラオス在住のDrコンサップ、Drソムチットと連携を持ち、ラオスの学校保健に貢献できる活動を続けてまいります。皆様のご協力よろしくお願い致します。

# 2010じゃっとスタディツアー報告

2010年12月24日～12月31日、10名にて現地の活動を視察してきました。

## 12/24 (金) 鹿児島空港出発～ソウル～ハノイ空港到着

空港での待ち時間で学生たちは交流を図っていました。(ハノイ泊)

## 12/25 (土) 午前 ハノイ市内観光～夕刻ビエンチャン

ラオス料理レストランにて夕食。ラオス音楽を聴きながらラオス料理を楽しみました。(ビエンチャン泊)

## 12/26 (日) ファノイ小学校訪問 机椅子記名作業 寄贈式

昨年より援助対象校となったファノイ小学校を視察。机椅子記名を行い、学校設備等の寄贈式を行いました。当日、生徒、父母によってコンクリートむき出しの校舎にペンキ塗りが行われていました。クリーム色のペンキを塗られ、教室が明るくなったように感じました。



● ペンキ塗り中の父母の方々



● 記名を待つ子供達



● 渡辺君から文具、絵本を受け取る校長先生

## ノンノ小学校訪問 机椅子記名作業 寄贈式 昼食会



● 記名中の白水さん、竹内さん



● 昼食の準備ができました！



● 植樹祭(中園君と学校関係者)

今年度より対象校となったノンノ小学校です。

12月14日までにお預かりした机椅子募金による机椅子約50セットの記名作業を行いました。

## タラサオ市場見学 夕食会 ～ 日本武道場にてコンサート鑑賞

青年協力隊員としてラオス派遣されている助産師北村さん、ラオス日本語学院で日本語教員として勤務するかたわらラオス大学でラオ語を勉強中の菅原さんとそのお弟子さんのブンを交えて夕食会を行いました。学生たちは、北村さんや菅原さんの仕事の内容、ラオスでの生活でおどろいた話などを聞きました。日ラオス外交関係樹立55周年主要行事の一つであるコンサートがあり、地方の踊りや民族衣装を楽しみました。(ビエンチャン泊)

## 12/27 (月) ナテ小学校訪問 机椅子記名作業 昼食会 プレスクール壁絵描き ナテ村ホームステイ



● プレスクールの外観



● 自分の子供を抱っこしている先生



● 壁絵の下書き中の中園君

今回の学生活動の中心となるナテ村へ到着です。

ナテ村は 2002 年からの活動地で、隣のディエンデン村とクラスター方式校区で、もうひとつの学校とともにじゃっどの活動に積極的に参加し、効果の上がっている地域です。今回はこれまでの御縁もあって、学生たちの民泊を行うことになりました。その他、学生たちはじゃっどが援助したプレスクールの壁に壁絵を描くことになりました。絵本「手をあらおう」をラオス語に翻訳する御縁で講談社さんを通じて知り合えた漫画家「西山優理子」氏の下絵を元に壁絵を描きます。

ラオスでは、5 学年までである小学校敷地内にプレスクールを併設することが義務づけられました。(ラオスでは、村の規模や隣の学校との距離などで、5 年生まで設置されていない小学校もあります) そのため、今年度に入りプレスクールへの援助依頼が多くなっています。夕刻、学校近くの校長宅へ男子 2 名、女性先生宅へ女子 4 名と帖佐理事の 2 班に分かれ、民泊を行いました。電気はあっても、照明に使う程度のラオスの田舎では夕食後は寝るだけです。日本とは違う生活習慣と、異国の知らない人の家に泊まる不安でいっぱい夜を迎えたのでした。(ナテ村泊)

### 12/28 (火) ナテ村にて活動 現地スタッフによる「手をあらおう」を使ったワークショップ

ナテ村での二日目です。学生たちは、ラオス美術学校の先生 2 名の協力を得て、引き続きプレスクールの壁絵描きです。

ナテ村を中心としたクラスター校区の先生方を招き、DR マニパンを講師に、絵本「手をあらおう」活用の保健教育セミナーを行いました。じゃっどでは絵本など教育教材を寄贈する場合、その活用法なども一緒に伝えています。

DR マニパンは、内容説明や活用方法などを説明しますが、参加の先生たちに初見で読んでもらうと、結構つかえながら読む先生が多いでした。



● セミナー 打ち合わせをする帖佐理事



● セミナーの様子



● 少しずつ壁画が描かれていきます

昼食は、日本から持って行ったカレールウを使って日本式カレーをホストファミリーのお母さんたちと作りしました。昼食後は、引き続き学生たちは夕方までプレスクールの壁絵作成を行いました。(ナテ村泊)

### 12/29 (水) プレスクール壁絵描き～贈与式 パーシー その後村人と会食

朝、起床後各家庭のお手伝いをした後、壁絵の仕上げ作業を行いました。部屋の内側を書いている最中に、子どもたちが入り「これは犬」「これは馬」などと指を指して話しはじめ、仕上げにがんばるエネルギーとなりました。 昼には子どもや村人が学校へ集まり、贈与式が行われました。その後、ペンキ塗り立てのプレスクールの部屋で「パーシー」を行い、お約束の宴会となりました。



● パーシーに参加



● 左から帖佐徹さん、小幡理事、コンサップ氏



● 村人たちが集まりました

# 平成 25 年度（2013 年）事業計画

## 国内活動

①絵本部：じゃっど活動の広報、啓発を兼ねて、また地域貢献への意識も持って行う。

「絵本を届ける運動」に参加（社団法人「シャンテ国際ボランティア会」から、ラオス語訳のシールと共に日本の絵本セットを購入。会員、また活動を理解し協力して下さる方々にラオス語訳シール貼りの作業を手伝って頂き、ラオスへと送るものである）

②開発部：昨年に引き続き、以下を行う。

- ・鹿児島大学法学部にて講義「ボランティア論」
- ・鹿児島大学ボランティア体験学生の受け入れ（後期）
- ・県内の小中学校での講話
- ・県内の国際交流活動に積極的に参加

③広報部：じゃっど新聞の発行、ホームページ更新、パンフレット配布、ボランティアの募集、他

## 1. 国内事業

① ラオスやじゃっどの活動を鹿児島県内でもっと知ってもらうためにスタディツアーを企画、実施する。時期については、会員の要望などを考慮する。

② 「薩摩川内国際青少年音楽祭」の後援

③ 「じゃっどパネル展」の開催

- ・鹿児島市と薩摩川内市で 2 回開催予定
- ・遠方の方へは会員を通して貸し出しを行いパネル展の開催を促す
- ・企業との連携・パネル展（地元企業）の共催

④助成金等

- ・薩摩川内市国際交流ネットワーク団体（予定）
- ・鹿児島県および薩摩川内市の各種助成制度への応募、他（予定）

## 2. ラオスでの事業の実施に関する事項

本年度は、“じゃっど”の今後の活動を見据えたリーサーチの年とします。

ピエンチャンでは、援助を必要としなくなっております。“じゃっど”の活動を必要としている場所はどこなのかを探し、また、そこで活動する人材がいるかをラオス側代表である Dr.Somchit, Dr.Kongsap と共に検討します。

ピエンチャン特別市内の小中学校は韓国をはじめとする諸国の援助が入り、20 年前と比べると随分豊かになってきました。ついに、目標としてきた発展的撤退でしょうか。しかし Dr.Somchit は、まだまだ地方は援助が必要だと考えています。地方を対象校にするとラオススタッフは日曜日を利用しての活動のため、遠距離に行くことは厳しいです。交通事情がよくないからです。今回、ラオスで活動している他の NGO との協働活動をしたらどうかと

の案が出されました。ラオスでは様々な分野で活動している NGO があります。手段は違い



● みんなで踊ったり歌ったりしました



● いよいよ宴会の始まりです



● 左から石神さん、大迫さん、村方さん

### サムケ小学校 プレスクール視察 絵本や学校設備品などの贈与

ナテ小学校同様、2002年からの支援校サムケ小学校へ移動し、整備された図書館やプレスクールを視察し、絵本「手をあらおう」と要望のあった扇風機などを寄贈しました。



● サムケ小学校長、小幡理事長



● 夕日を見つめるじゃっどメンバー



### メコン川に沈む夕日を見てから食事

毎回の参加者から好評のメコン川に沈む夕日を見に、メコン川沿いの公園へ出かけました。

例年のようにビールを飲みながらの夕日鑑賞とはなりませんでしたが、雲一つない夕景は素晴らしいものでし、学生たちにとって食べ慣れないラオスの村ご飯が、3日間続いた後でしたので、リクエストの「スイーツ」「チーズを使った食事」へと出かけました。(ピエンチャン泊)

### 12/30(木) ラオス国立医療学校見学～マホソット病院見学～市内観光 ～ハノイ～ソウル(機内泊)

参加者の村方さんがシニアボランティア職員として2001～2002年に勤務していたラオス国立医療学校を見学です。日本の看護学校や医療学校と比べると寂しい感じの学校ですが、ラオス唯一の医療関係職員養成学校です。日本との医療格差を感じることでした。ラオス国立医療学校の先生の紹介で、国立マホソット病院を見学しました。国立ではラオス一番と言われる病院ですが、こちらも医療格差を感じることでした。



● 寄生虫の標本



● 竹内さん、マホソット病院の  
看護師さんと記念写真



● マホソット病院内

### 12/31(金) ソウル～鹿児島空港にて解散

やっと鹿児島に着いたと安心したら、なんと鹿児島地方は45年ぶりといわれる大雪でした。皆様、おつかれさまでした！(小幡 順子)

# スタディツアー参加学生の報告

川内高校2年 石神 よし乃

私がラオスに行って一番印象深かったのはラオスの子どもたちのことでした。ラオスの子どもたちはとても人懐っこくて、日本から来た私たちにみんな優しく親切に接してくれました。村の子どもたちは私たちをととても歓迎してくれてすぐに仲良くなることができました。

最後に到着した小学校では放課後にも関わらず、村中の子どもたちがやってきてみんなで鬼ごっこをしたりして遊びました。みんながどんどん集まってきてくれて、私はほんとうに嬉しかったです。子どもたちはゲームなど部屋の中で遊べる道具を持っていないので朝早くから友達と外で遊んでいます。日本の子どもたちもラオスの子どもたちのように外で思いっきり遊ぶことができたらいいのにと思いました。次に印象に残ったことは子どもたちが衛生的にあまりよくない状況で生活していたことでした。子どもたちの制服はあまりきれいではありません。シャンプーは貴重品らしく、髪の毛をあまり洗わない子もいるようでした。特に男の子たちの中に多かったのはほとんど髪を洗っていないで髪が固まってしまって、少しにおいがしている子などもいました。

じゃっどのみなさんがラオスの小学校で衛生面の指導をなさっているわけが本当によくわかりました。これは村の外の人が教えてあげないとだれもこの子たちに衛生面のことを教えてあげられないと思いました。わたしもこれからこの子たちのために出来ることがあったら、募金や寄付などで協力していきたいと思います。ラオスは物質的、衛生的には日本よりまだまだ遅れています。しかし、決して貧しい国、恵まれない国ではないと思います。人びとはみんな信頼し合って助け合って幸せに暮らし、笑顔を絶やさず毎日を一生懸命生きていると思います。子どもたちの目はキラキラと輝いていました。みんな心がとても平和でとても豊かなのです。



川内高校2年 中園寿紀

今回スタディツアーに参加して、ラオスの現状、文化を肌で感じることができました。特に、ナテ村でのホームステイは僕にとって貴重な経験となりました。日本と異なる文化言語のもとで暮らす人々とどのように接すればいいのか不安でいっぱいでしたが、身振り手振りとわずかなラオ語の知識でなんとか2泊3日を過ごすことができました。そのときに一番大切だと思ったのが『笑顔』でした。笑顔さえあればコミュニケーションはとれるのだと実感しました。笑顔こそが世界共通語なのです。ラオスはまだまだ発展途上ですが、ラオスには言葉では言い表せないほどの素晴らしい文化があり、素晴らしい人々でいっぱいでした。それらを決して失うことなく、ラオスが発展できるように何らかの形で支援ができたと思います。

コブチャーイ（ありがとう）、ラオス！！

コブチャーイ、ラオスの人々！！



ラオス、食べ物おいしくて親切な人々がいっぱいの国です。私は国際協力に興味があり、開発途上国のラオスを自分の目で直接見て感じたかったので、ラオスタディツアーに参加しました。

この7日間で特に印象に残ったのがホームステイです。私は、ホームステイをしたことがない上に、ラオスの生活に馴染めるかとても不安でした。でも、ナテ村の人は皆親切でずっと笑顔で接してくれたので、すぐに不安はなくなりました。その中で、一番大変だったのは水浴びです。日本のようにシャワーもなければ浴槽もなく、お湯もでないので、桶に入っている水を使い体を洗うのですが、とても水が冷たくて掛けるたびに叫んでいました。トイレも自分で流さなければならぬので、水に関しては苦労しました。

私は改めて日本は恵まれていると思いました。ひねるだけで好きなだけお湯がでて、トイレも自動で流れる所もあるし、不自由なく生活していたのだと感じました。私がなにげない普段生活を思い返すことができたのは、このスタディツアーでホームステイをして多くの人々と出会えたおかげです。言葉が通じなくても思いはしっかり通じるのだと実感させられました。将来、ラオスをまた訪れるつもりです。どのくらい発展しているのか見てみたいです。そして、ラオスの人々にお世話になった分、貢献していきたいです。

本当にこのような機会を与えてくださって、とても感謝しています。ありがとうございました。



純心女子大学看護学科1年 竹内真央

私は学校保健に興味を持っていたので、ラオスの学校や衛生について学ぶことができるこのラオスタディツアーに参加しました。村でのホームステイや病院見学、青年海外協力隊の方の話も聞くことができました。手洗いの必要性を大人の方に絵本を読みながら現地の医師と一緒に指導していました。私は衛生についてのセミナーがここからなのかと衝撃を受けました。ゴミがたくさん落ちていたり、紙がないトイレだったり驚くこともたくさんでした。しかし、これらの体験から私は、言葉や文化、環境が違っても「笑顔」は世界共通であると実感しました。あいさつの時、子どもたちと遊ぶとき、何か聞きたいとき、目と目を合わせて笑顔を伝えれば相手も笑顔で返してくれる。このやりとりがとても楽しかったです。人と人が通じ合えるのは言葉よりも笑顔だと思いました。次に、持続して支援することが大切だと思いました。1回何か支援したからずっとそれがきくなるようになるというわけではなく、何年もかかって、たくさんの人々の支援があり変化していくと思いました。また、私たちが何かをして終わりではなく、現地の人と一緒にしたり伝えたりすることでラオスの人たち自身で発展していけるように支援することが大切だとわかりました。最後に、私は今まで日本の衛生があたりまえだと思っていましたが、ラオスの現状を見ることでたくさんのことを考えさせられました。これからは世界に視野を広げ、環境や衛生についても学び、ボランティア活動にも参加していきたいと思います。そして、看護職は幅広い分野で活躍できることも分かったので、これから大学で学びながら自分がどんな看護職につきたいのかも考えていきたいと思っています。



得意の  
ハンヤを披露